まい ふらわあ・「菊花」by 立川菊花愛好会

高田二三夫の秋・多摩川の花や鳥や

イソシギ

休息する水鳥たち

〔左〕カルガモ 〔右〕ササゴイ

自然は約束をたがえることを、しない。秋深い立川には、それにふさわしい風が吹くものです、菊花の薫りさえほのかに。あなたのこころのレンズは、この秋をどのように撮るのでしょうか。わが街・立川をこよなく愛してやまない高田二三夫さん（柴崎町３丁目）が、立川の秋によせて話しかけた物語りは――。

セグロセキレイ

ヒヨドリ

ツグミ

モズ

ススキの群生

カヤ

（上）イヌタデ
（右）ツリガネニンジン
（左）チカラシバ

エノコログサ

トピックス

立川 深秋

今年の立川は、特に躍動感がみなぎっていたように思います。青年会議所をはじめとして「変わりゆく立川」の認識と、それに呼応してゆく若い力は、いままでにない活力をあたえてくれました。秋もふかまったこの頃ですが、「こころのままに生きる」ユニークな立川人を訪れてみました。いるものですねえ。秋の街にいろどりを与えてくれた人びとに、最敬礼！

畳屋の奥方が、突如、歌手に
安藤光子さん（富士見町二丁目）

名にしおうキングレコードからシングル盤がでた。堂々4分25秒の演歌であります。その名も『夫婦畳』、歌うは安藤光子。わが立川から大歌手誕生。それのみか、ご自分で作詞までしてしまう。「青い畳に　ほれこんで　心と心を　縫いあげた　夫婦畳も　五十路に近い……」歌詞だけ聴いていると何だかオノロケみたいだけど、これが「全国畳産業組合振興会」推薦！とくるからニクイ。二番「夢を縫いこむ太い針　見てくれ　この指　肘のタコ　夫婦一代　まごころこめて……」。来年の歌謡界は美空さんか、安藤さんか。

「カテリーナ古楽合奏団」をひきいる
松本雅隆さん（上砂一丁目）

懐古趣味もここまでくればホンモノであります。いや、松本さんの場合は趣味どころではない。なにしろ、アノ坂東玉三郎に見込まれて、池袋・サンシャイン劇場『ロミオとジュリエット』では音楽を全面的にまかされたという程の力量なのである。その音色といったら、ちょうどシンセサイザーの反対側の音とでもいおうか、角笛のようなクルムホルンののんびりとした音調。暖かく優しい音は、そっと眼をとじれば、そこはもう中世ヨーロッパである。そういえば松本さん、どことなくコテン的な顔してる。生まれた時と場所を間違えたか。

二人だけの「はなさき座」
岡　昌子さん（砂川町六丁目）

富士見町団地の広場、群がる子供たちの歓声『おふく人形』を操る大道芸は二人だけの一座だ。昨年四月に旗提げ、西多摩民族芸能研究会の中のメンバーである。好きが嵩じてプロになった。説教節、歌舞伎の原形で女装の『鹿島踊り』などを伝承。一年半で百五十回もの公演、車人形に握手を求めて子供たちは小さな手を差し出す。こんな時の交流がたまらない、と――。コンクリートの世界に民族芸が古里が住みついてくれたら、と伝わる芸能を広めることに情熱を燃やす岡さん、その人形を創った団長奥野さんとの人柄がにじみでる。

自転車競技に熱く
橋詰一也選手（栄町四丁目）

総合アジア大会においてゴール寸前で落車。彼は前回の傷が癒えたばかりであった。「苦しく乗ってはダメだ、楽しく踏まなくちゃ」とソウルの大会を前に涙をのんだ橋詰選手のアマチュアとしての心意気だ。一昨年、全日本アマチュア選手権大会二位、東日本実業団大会優勝、十年ぶりに日本選手が出場して話題を呼んだイタリア大会、アジアロードレース出場という多彩な記録である。今話題のプロ界だが、アマチュアとしてやれるところまでやる！と彼は鎖骨に金具入りの身体をおしての練習、立川競技大会に顔をみせた。来年の国体に備えて熱い。

21円ラーメン、大盛況
空閑一男さん（曙町二丁目）

曙町のラーメン店「満洲里」は押すな押すなの大盛況。それもそのはず、改装開店とあわせて創業21周年記念で太っ腹の空閑さんはこの日ラーメンを一杯21円で提供した。「日頃お世話になっているお客様に少しでも恩返ししたい」と思いついた。11時の開店と同時にひっきりなしの来店者が。お昼時にはついに列が出来た。お客さんの中にはわざわざ電車に乗って来た人もいたが真心の21円ラーメンの味に舌鼓をうっていた。結局この日一日で八百杯のラーメンが売れた。売り上げ金は全部社会福祉協議会に寄附したという徹底ぶりが気持ち良い。来年も記念日にはラーメンのサービスをするという。値段は、もちろん22円だそうだ。

立川・歴史のひとコマ ⑩ 普済寺

柴崎町一丁目の普済寺は、鎌倉時代初めよりわが立川の地に栄えた立河氏の館跡といわれています。ここは多摩川を南にのぞむ立川段丘の突端にあり天然の要害の地です。また境内と墓地裏には高さ二メートル、長さ三〇メートルほどの土塁が今に残り当時の館をしのぶよすがとなっています。

この格式高いお寺は、伝によれば南北朝時代の一三五三年に立河氏一族の菩提寺として立河宮内少輔（たちかわくないしょうゆう）宗恒が建立。開山は臨済宗の高僧として名の高い物外可什（もつがいかじゅう）が鎌倉の建長寺から招かれました。物外和尚の坐像は国の重要文化財に指定されています。

普済寺は創建より約一世紀にわたり、普済寺版と呼ばれる経典を刊行。行間に刷り込まれた開版助縁者名とその在所名は、当時の立川周辺の様子を知る重要な資料となっています。

戦国末期、立河氏滅亡のとき、この寺も兵火にあって炎上し、多くの貴重な記録や像などが焼失したと思われますが、それでも前述の物外和尚坐像の他にもたくさんの文化財がここに保存されています。

国宝の「六面石幢」は、物外和尚の弟子が寺の安泰と信徒の幸福を願って立てたもので、他に、釈迦牟尼如来坐像、普済寺版大方等大集経等々が挙げられます。

また、墓地の中の首塚（由来は不詳）の近くから、明治のはじめに六十数枚の板碑が偶然に掘り出されました。板碑は石塔婆の一種で、緑泥片岩のような平板石に梵字や仏像などを彫り、その傍に紀年を刻みます。鎌倉、室町時代に死者追善、生前の逆修供養（死後の冥福をあらかじめ生前に仏事を修して祈る）のために建立されました。出土した板碑群も、立河氏一族に縁の深いものと考えられます。（K・K）

漢字テスト⑩

空欄に一字挿入を試みよ。

隔□掻痒

有為□変

漢字テスト・答

隔靴掻痒（かっかそうよう）　靴をはいたまま足の裏を掻くこと。もどかしいことのたとえ。

有為転変（ういてんぺん）　世の中は常に変わり、止まることがないたとえ。「天」は誤り。

真如苑だより

朝晩、ひんやりとした空気が身をひき締めます。なぜか千里も見とおせるような、透明感が日本の秋にはあるように思います。真如苑の秋にも是非にお出掛けください。

■日時　11月29日(土)
　午後2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」(本誌を手渡してくれた人)へ。

工房から

●今年はことのほか残暑きびしくこのぶんだと冬になっても「夏」をやっているのではないかと、取越し苦労の立川人が集まって「夏を閉じる会」を催しました。おかげで、わが立川に秋が到来したというわけです。ところが最近は冬将軍の片鱗さえちらほら。●「深秋（しんしゅう）のトピックス」をお愉しみください。シュミと云ってしまえばそれまでですが、ご自分の生活をエンジョーイしてゆく作法を知っておられる方々ばかりです。深い意味において、人生の実力者ではないでしょうか。●今年も『ベスト立川人・展』が歳末におこなわれます。少し先の話ですが「来年」ではないので鬼の笑いものにはならないでありましょう。●小鳥くる午後のコーヒー　えくてびあん。

（編集）秋山光久　大野玲子　加賀桂子　神山清子　隅川 隆　田中恵子　半沢正弘
（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治　スタジオ265

月刊えくてびあん　第28号
昭和六十一年十一月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町2-4-11
ファインビルディング　3F
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷所

S P A G H E T T I !

御馳走館（ごちそうかん） 立川

創る人がいて、味わう人がいる。この華麗なる当り前の世界―5

ゆでたての美味しいスパゲティをたべてみたくなったら「はしや」へ行く、当り前であります。ゆでたて。この当り前のことをカタクナに守りぬくにはコンジョーも大事だけれど、それにふさわしいテクニックとケーケンがものを云います。素人がマネするものではありません。北口・フロム中武4F ☎28・2338

ゆであがったスパゲッティを手ばやく調理する。味はソースとスパイスが決めてになる。

小海老の唐辛子入りトマトソーススパゲティ ¥1,000

ベーコンとソーセージのスパゲティ ¥900

なぜか、蕎麦の「ゆであげ」感覚がこの店にはいきづいている。